

# A O I国際病院 Time's

VOL. 13  
冬号



## 目次

- P, 2 院長挨拶
- P, 3 連携会報告
- P, 4 部署紹介
- P, 5 スタッフ紹介
- P, 6 おいしいページ
- P, 7 冬の注意報
- P, 8 編集後記

## 病院の理念

地域の皆様に信頼していただける、質の高い医療を提供します。

## 基本方針

1. 救急医療から、一般急性期、回復期、慢性期、緩和ケア期までのシームレスな総合医療を提供します。
2. 川崎市臨海地域病院として、各医療機関、保健福祉機関と密接に連携します。
3. 生活習慣病健診を充実させ、予防医学に貢献します。
4. 運営の持続的安定を確保し、病院としての責任を果たします。
5. 職員が誇りを持てる働き甲斐のある病院を目指します。

# 新春を迎えて

あけましておめでとうございます。

今年の干支は「丁酉（ひのととり）」です。「酉」の意味は果実が極限まで熟した状態を表していると言われており、物事を行うには良い状態であると言われていています。

この「丁酉」ですが、前は昭和32年で、ちょうど60年前となります。

その頃の日本は、東海村原子炉が完成、東京が当時世界一人口の多かったロンドンの人口を抜いたり、今後の日本の成長に関わる大きな転機を迎えた年でもありました。

奇しくも当院でも昨年から今年にかけ、再生医療や医療ロボットの利用など新しい取り組みを正に開始しています。

今、世界は「時代の転換期」を迎えていると言っても過言ではありません。世界のあちらこちらで、新たなイノベーションの波が押し寄せており、新しい科学技術が一般的に利用される社会になるものと思われれます。

当院もその波に乗りそびれる事無く、しっかりと前を向き、成長したい年になるよう努力して参ります。

今後とも皆様のご協力を賜りますよう、節にお願い申し上げます。



AOI国際病院 院長  
古川 良幸

# 第3回 医療連携会を行いました

## 医療連携会 報告

TOPIC NEWS

平成28年11月18日に当院の第3回目医療連携会を川崎区殿町にある、ジョンソン・エンド・ジョンソン東京サイエンスセンターにて開催をいたしました。

講演会では、まず古川院長より当院の取り組みの紹介をさせていただきました。

続いて特別講演としまして、昭和大学 脳神経外科講座主任教授 水谷徹先生による「脳血管障害の手術－脳動脈瘤と頸動脈狭窄を中心に－」という演目でご講演頂きました。

当日は多くの医療機関や福祉事業所の皆様にお越しいただき、当院で新たな試みとなる、医療特区についての紹介や、サイボーグ型ロボットを皆様にご紹介をさせていただきました。



続いて、講演会に参加していただいた方と当院職員との意見交換及び親睦を深める目的で懇親会が始められました。会場では、各診療科の紹介や、当院との連携について食事を交えお話しすることができ、大変有意義なひとときであったと思います。

今後は更に、このような交流会を重ね、個々の診療科単位でも勉強会等が主催できたらと考えております。

また当院では皆様から頂戴したご意見、ご要望等を今後の地域医療連携に繋がるよう努めていく所存でございます。



# 診療情報管理 & 医師事務

## 部署紹介

INTRODUCE

## 診療情報管理士

診療情報管理は、現在診療情報管理士2名の専任スタッフで業務を行っています。

業務の内容としては、入院カルテを完成させるための確認業務を行っています。確認を行うことにより、

患者さんに情報を求められた時に、確実に提供できるようになっています。

また、カルテから情報を抽出し、病院内で多い疾患や手術、他の病院と比べてどうなのか等を、分析する役割も担っています。

さらには電子カルテの記載内容を確認して、診療行為が正しく記載されるかなどの確認を行っています。

これは、病院側にとって、診療行為をきちんと記録として残すためでもあります。患者さん本人から開示請求があった際に、いつでも説明ができるような記録を残すためでもあります。

また、当院は電子カルテですが、同意書など紙で保管を行っているものもあり、以前の紙カルテについても、大切な診療記録として保管しております。

ちなみに、患者さんご本人からのカルテの開示請求手続き窓口は、医事課で行っていますのでお問い合わせ下さい。



診療情報管理士

江口 ちひろさん

## 医師事務

医師事務作業補助者とは、医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。その呼称は病院によって様々です。

医療秘書と呼ぶ病院や医療クラーク、メディカルアシスタントなどと呼ばれる病院もあります。

業務内容は診療報酬の施設基準によって定められており、大きく分けると以下の業務があります。

一つ目としてもっとも基本的な業務である、診断書や診療情報提供書など「医療文書の作成代行」があります。

次に電子カルテなど「退院サマリーや検査等の代行入力」があります。

このように医師事務作業補助者の業務は多岐にわたりますので、実際の業務は病院ごとの実情によって特色あるものになっています。

患者様と接する機会があまりないかもしれませんが、もしお見かけした際にはお気軽にお声かけください。



医師事務

谷川 真由美さん

スタッフ  
紹介

今回は薬剤科の酒匂川 徹さんです。  
課外活動でフットサルもされている、元気いっぱいの薬剤師さんです。

はじめまして、私は薬剤科の酒匂川 徹（さかわがわとおる）と申します。自己紹介をする時には聞き返されることも多く、酒匂川という苗字は大変珍しく、呼びづらいです。

私も自分の名前ではなかったら、読めるだろうか心配になります。しっかり読めた際には、早口言葉が上達しているかもしれない。しかしこの珍しい苗字ですが、ある地域に行くとともにとてもなじみ深い名前でもあります。

というのも、神奈川県西部に同じ名前の川が実在します。その川は神奈川県では2番目に大きな川で、酒匂川と言います。

源流は静岡県を流れる鮎沢川で、神奈川県に流入すると酒匂川と名前を変え、相模湾に注ぎます。

そして酒匂川は神奈川県全体の上水道の約30%を担っていて、当院がある川崎市の水道水にも酒匂川の水が利用されています。皆さんご存知でしたでしょうか？

これだけ話を聞けば酒匂川という名前に親近感を覚えていただけたと思います。

そんな私の病院での役割は、患者様の薬物治療をサポートすることです。具体的には患者様が使用している薬の使い合わせを確認したり、患者様の体質や状態に見合った薬が使われているのかどうかを確認します。

そうすることで安全に薬が使われているか、また時には患者様の病状などを考慮して、他の薬の処方方を医師に提案することもあります。

元々私は調剤薬局の薬剤師として勤務していたのですが、病院での業務は調剤薬局に比べ多岐に渡り、戸惑うことも多くありましたが、やっと業務にも慣れてきたところです。

まだまだ病院の薬剤師としては駆け出したばかりですが、一步一步着実に成長していけるよう、そして少しでも患者様のお役に立てるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします！



# 生姜について



栄養科の  
ページ

DELICIOUS  
PAGE

本格的な寒さが続いています。皆様は体調など崩していないでしょうか？  
今回は身体を温めてくれる生姜についてご紹介します。  
生姜には主な成分として、『ジンゲロール』と『ショウガオール』があります

ジンゲロールとは・・・  
生の生姜に多く含まれている成分です。  
ジンゲロールには殺菌作用や、血流を改善する働きがあります。

ショウガオールとは・・・  
ジンゲロールに熱を加えたり乾燥させることでできる成分です。  
生姜を加熱や乾燥させることによってジンゲロールの一部がショウガオールに変化します。

ジンゲロールは身体の表面温度を上げますが、深部体温は下げてしまうため、冷え性の方が生姜を生で食べることはおすすめできません。

ショウガオールは、体内の脂肪や糖質の燃焼を促す働きがあり、さらに冷えの原因でもある体内の余分な水分を尿や汗として排出する作用があるので、身体を深部から温めます。

これらのことから、効果的に身体を温めるには、生姜を加熱したり乾燥させて摂取することをおすすめします。そこで今回は、効率良く手軽にショウガオールを摂取できるドリンクレシピをご紹介します。

## ○生姜湯のレシピ

[材料]生姜小さじ1杯、はちみつ大さじ1杯、  
レモン汁  
適量、お湯150ml

[作り方]

1. 生姜をすりおろす。
2. マグカップにすりおろした生姜とはちみつを入れる。
3. お湯を注ぎ、レモン汁を加え、よく混ぜたら出来上がり。

[ポイント]寒い日の朝に飲むと身体が温まります。また、レモン汁を加えることで、ビタミンCによる免疫力アップも期待でき、風邪予防にも効果的です。



## ○生姜ココアのレシピ

[材料]生姜小さじ1杯、ココア小さじ3杯、  
ホットミルク150ml

[作り方]

1. 生姜をすりおろす。
2. マグカップにすりおろした生姜とココアを入れる。
3. ホットミルクを注ぎ、よく混ぜたら出来上がり。

[ポイント]ココアには血行を良くして身体を保温する効果が高いため、生姜と一緒に飲むとより効果的です。



WARNING

冬の  
注意報

# 感染性胃腸炎にご注意を

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。原因となるウイルスには

## 「ノロウイルス」「ロタウイルス」「アデノウイルス」

などがあり、主な症状は腹痛、下痢、おう吐、発熱です。感染性胃腸炎は、例年、10月から増加し、12月頃をピークとして3月頃まで多発します。

特に原因として最も多いものがノロウイルスです。

カキなどの二枚貝がノロウイルスを取り込んでいて、生であったり加熱が不十分なまま食べると感染する場合があります。

また、ノロウイルスに感染した人が調理をして、移してしまうこともあります。一般にウイルスは熱に弱く、加熱処理は有効な手段です。特に症状がまだ出ていない、不顕性感染の状態のときには注意が必要です。



もう一つの経路として、吐物や便などが飛び散り、乾燥したものを吸い込んでして大規模な集団感染も発生することがあります。

おう吐物や便を処理する時は、充分注意をして処理することを心がけましょう。

余談ですが、二枚貝に多くウイルスが蓄積する理由として、海水を二枚貝が吸い込み、内臓内でエサとなるプランクトンやウイルスだけを蓄積し、出水管という器官から海水だけを吐き出します。

その際、体内で取り込まれたウイルスは濃縮されると考えられています。

そもそも人間が海や貝を汚染していることが、ノロウイルスに感染してしまう原因の根底にあるとも言えます。

感染予防の基本はこまめな手洗いです。特に排便後、調理や食事の前には、石鹸などを使い十分に手を洗いましょう。ぜひ手洗いを習慣づけ、感染性胃腸炎から身を守りましょう。

# 編集後記



冬も本格的となり、朝に布団からなかなか出れない時期となりました。寒くなり気温が下がると、身体にもいろいろな支障が出てきます。この時期はついつい猫背になってしまいがちです。

猫背になると「肩こり」「腰痛」「頭痛」といった身体の不調につながると言われており、精神的な症状にも影響を及ぼすとも言われています。

諸説ありますが、猫は早起きが苦手で、肝心な日に寝坊をしてしまい、結果ねずみに嘘の日程を教えられ、十二支になりそびれた。という民話があります。

一方昨今では早起きの本なども出版され、話題となっています。朝起きて太陽の光を浴びるだけで、幸せにつながるホルモンが分泌され、体にいい影響を及ぼしてくれるそうです。

寒くつらい日々が続きますが、是非皆様も朝の日を浴びて健康にこの冬を乗り切りましょう。

地域医療連携室 横田

患者様のご紹介、ご予約のお問い合わせは  
地域医療連携係 TEL044-277-5519  
FAX044-277-5747